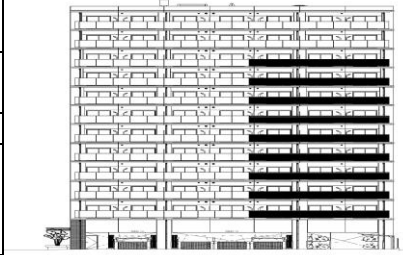


# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合性能評価システム 名古屋版 (2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サムテイ名古屋市瑞穂区堀田通8丁目 新築工事	階数	地上12階、地下0階
建設地	名古屋市瑞穂区堀田通八丁目8番1、8番2、8番3、8番4、8番5、8番6	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	77 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2024年6月10日
敷地面積	504 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	265 m <sup>2</sup>	確認日	2024年6月11日
延床面積	2,486 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Qのスコア = 2.5

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.9

#### LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.0

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 建物の外観は、周辺環境に配慮したすっきりとしたデザインとし、ゴミ置場は建物と一体とし美観に努めた。		
<b>Q1 室内環境</b> パルコニー側の窓を大きく取り、採光や換気に十分配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 駐車場及び自転車置場を敷地内に設け、バイク置場も設置し都心移動の利便性に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 管理人室や防災倉庫を設けることで住人の災害時対策や共用部の清掃管理に考慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 省エネルギー対策を行った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 界壁を乾式間仕切壁とし間取りの変更が容易に行え、長期に渡って使用できる計画とした。	<b>LR3 敷地外環境</b> ゴミ置き場に扉を設置し、周囲からの美観や、ゴミの臭いに配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)サムティ名古屋市瑞穂区堀田通8丁目 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル  
 ■評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.0</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	1.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.7</b>
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 3.2
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 1.0
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 2.7

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。